

設問

[問い1] 新たな質問、視点

- 1) 3年前、本来であればCLが取得すべきだったのに、なぜ奥様ががんばって取得したのか。
- 2) 現在の仕事は楽しい、とのことですが、楽しい点についても少し教えてくださいませんか。
- 3) 想定外の異動で現在の職場に異動されたのは、どういう経緯だったのか。
- 4) 人生いろいろある、とのことですが、そのように感じるのはどうしてなのでしょう。
- 5) 忙しいかもしれない、と奥様に言って「それとこれとは関係ない」と言われどう感じましたか。
- 6) 希望していた部署への異動が叶った時は、どのように感じましたか。

[問い2]

良かった点

事例ⅠのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由: 冒頭では言いづらい様子のCLに傾聴の姿勢を示すことで信頼関係を徐々に構築することが出来、育児休暇に関する悩みをお話ししていただくことができた。

異なっていた点

事例ⅡのCCt10 (相応しい・相応しくない)

理由: CLの現在の職場でなぜ休暇取得の話を出せないのか、CLの話からは忙しいことが理由とのことだったが、その背景等について問いかけて不足展開しなかった。

[問い3] あなたが考える相談者の問題

CLは妻と3年前に育児取得について次の機会はCLが取得すると約束し、CLも育児の必要性は認識しているにもかかわらず、自分が取得することに関しては職場に言いづらく何も相談できておらず職場での対話不足が見られる。また妻に代わっても自身の仕事の状況が3年前とは変わって取得しづらくなったことを伝えられていた様子も見られる。妻との対話不足や、育児を共にやろうとする妻との共通認識不足もある。

[問い4] どのようなやりとりで面談を展開するか

冒頭で言いづらそうな様子で話が進まなかったCLに丁寧に話を伺い信頼関係の構築を進め、CLがお話ししたにできるような関わり。そのうえで、CLがなぜ職場に休暇取得の相談が出来ないのかを、CLの希望していた異動が想定外で叶った時の話を伺い仕事観を話ししていただくから内省していただく。そして妻と3年前の仕事の状況が変わったCLの仕事について話が出来るように働きかけていく。最終的にはCLが自身の仕事についても充実し、妻と共に育児に取り組めるような決断が出来るよう支援していく。